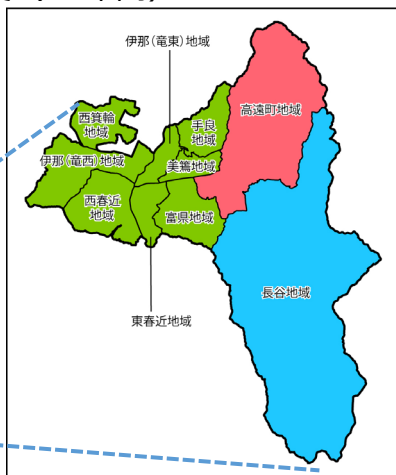


14 伊那市文化財保存活用地域計画【長野県】

【計画期間】令和7～16年度（10年間）

【面積】667.93km²

【人口】約6.5万人



【関連計画等】南アルプスユネスコエコパーク（H26年度）、南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク（日本ジオパーク、H20年12月）

指定等文化財件数一覧

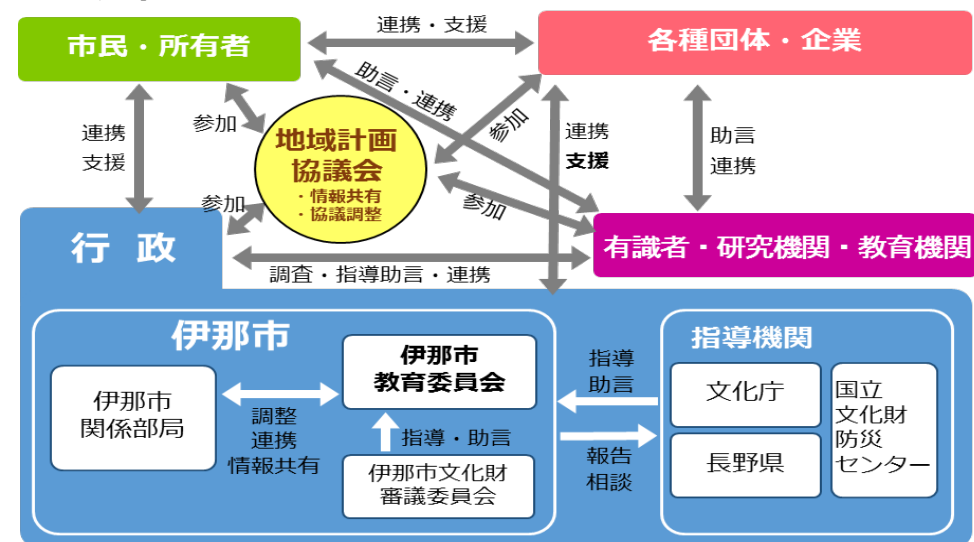
文化財の種類		指定等の区分							合計
		国指定・選定	国選択	県指定	県選択	県選定	市指定	国登録	
有形文化財	建造物	2		1			25	2	30
	絵画	1		0			4	0	5
	彫刻	0		1			16	0	17
	工芸品	0		1			4	0	5
	書跡・典籍	0		0			5	0	5
	古文書	0		0			4	0	4
	考古資料	2		1			6	0	9
	歴史資料	0		0			1	0	1
	石造文化財						12		12
無形文化財		0	0	0	0	0	1	0	1
民俗文化財	有形の民俗文化財	0		0	0		4	0	4
	無形の民俗文化財	0	0	0	2		8	0	10
記念物	遺跡	1		1			21	0	23
	名勝地	0		0			2	0	2
	動物、植物、地質鉱物	0		3			15	0	18
文化的景観		0					0		0
伝統的建造物群		0					0		0
合 計		6	0	8	2	0	128	2	146

指定等文化財は、146件

未指定の歴史文化資源は、43,227件把握

※文化財に限らず、伊那市の歴史・文化・風土・特性を今に伝える「人」、「もの」、「こと」（例：雪形などの自然景観や地名など）を総称して「歴史文化資源」という。

推進体制



歴史文化の特性

(1)「山 – 2つのアルプスと豊かな里山が育んだ歴史文化 –」

日々見上げる3,000m級の山々は、高山特有の動植物や、特異な地質に適応した植物を育んだ。麓の人々は、豊かな山の恵みを利用して生活を営み、山とは切っても切れない暮らしが連綿と続いてきた。

- ① 山岳地域の歴史文化
- ② 山間地域の歴史文化

(2)「川 – 水量豊富な暴れ川が生み出した天竜川上流域の歴史文化 –」

市域の山々から流れ出た水は、天竜川に注ぐ。私たちの暮らしは、標高差2,000m以上を一気に流れ下る支流河川と、天竜川が造った土地の上で営まれてきた。伊那市には、川が生み出した天竜川上流域ならではの歴史文化が見られる。

- ① 天竜川と三峰川に関わる歴史文化
- ② 河岸段丘によって育まれた歴史文化

(3)「みち – 伊那谷を交差する街道が織りなす歴史文化 –」

市域には幾筋もの街道や生活道があり、道沿いには往来者のために造られたものや、遠隔地から伝えられた芸能文化が遺る。複数の街道が交差し、人や物が集中する場所には「町」が形成され、人や物の交流によって多様な歴史文化が生まれた。

- ① 街道をめぐる多様な歴史文化
- ② 生活の道に関わる歴史文化
- ③ まちの発展とともに花開いた歴史文化

歴史文化資源の保存・活用に関する基本目標・課題・方針・措置の例

基本目標 「知る」 — 歴史文化資源を知る —

【課題】

- ・価値の把握が不十分な歴史文化資源がある
- ・地域に潜在している歴史文化資源の掘り起こしが進んでいない
- ・歴史文化資源の情報共有が不十分である

【方針】

- (1) 指定等文化財の追加調査、再整理の実施
- (2) 継続的な調査研究の実施
- (3) 市民の手による歴史文化資源の掘り起こし
- (4) 情報発信の強化
- (5) 文化財データベースの充実と公開
- (6) 知る場所、知る機会の提供 — 博物館等
公開活用施設の充実と学校教育との連携 —

【措置の例】

1 埋蔵文化財再整理事業

過去に調査が行われた遺跡(市指定史跡月見松遺跡など)の出土遺物や記録類の再整理や、未報告の遺跡の出土遺物などの再整理を行い、遺跡の再評価及び活用事業につなげる。

■ R7～16 ■ 行政



7 建築調査

歴史的建造物の調査を行う

■ R7～16
■ 行政、市民・所有者、
企業・団体教育研究

基本目標 「守る」 — 歴史文化資源を守り 未来へつなぐ体制づくり —

【課題】

- ・価値が高い未指定文化財の保存に懸念がある
- ・人手や資金等の問題から、歴史文化資源の保存・継承に不安がある

【方針】

- (1) 文化財の指定・保護等の推進
- (2) 文化財所有者、保存団体等への支援
- (3) 各種団体、組織との連携体制づくり
- (4) 無形文化財や無形の民俗文化財のアーカイブ化とデジタルアーカイブ事業の推進
- (5) 防災、防犯体制の整備・強化
- (6) 歴史文化資源の散逸防止・啓発活動
- (7) 人材育成や技術の継承

【措置の例】

26 調査成果を踏まえた文化財指定

各種調査の成果を元に、文化財指定・登録を進める。

■ R7～16 ■ 行政

45 学校と地域が連携した文化財の伝承

学校の授業やクラブ活動に取り入れながら、高遠ばやしや中尾歌舞伎といった無形文化財や無形の民俗文化財を伝承していく。

■ R7～16 ■ 教育研究、企業・団体



基本目標 「活かす」 — 歴史文化資源を広め活用する —

【課題】

- ・歴史文化資源を活用するための環境整備や取組が不十分である

【方針】

- (1) 歴史文化資源同士のつながり(関連文化財群)を踏まえた保存・活用
- (2) 周遊ルートの設定と活用、案内施設や説明板の整備充実・維持管理、多言語化への対応
- (3) 各種講座、講演会、歴史文化資源を活用したイベントの実施
- (4) 案内ガイドの養成と活動支援
- (5) デジタルコンテンツの開発・利用による公開活用

【措置の例】

56 古文書保存活用事業

古文書などの文献史料のデジタル化(撮影・書誌情報のデータベース化)を行い、AI解読ワークショップや古文書を題材に使ったイベントを行うなど活用を図る。

■ R7～16

■ 行政
市民・所有者
企業・団体
教育研究



関連文化財群 と 保存活用重点区域（文化財保存活用区域）

5つの関連文化財群

地域にある複数の歴史文化資源を、一体的に捉えることで、歴史文化への理解が進み、より身近な、魅力的なものと感じることができる。

1 山とともに - 2つのアルプスに抱かれた伊那市 -

東西にそびえる南アルプスと中央アルプスの山なみは、信仰の対象であった。人々の祈りに関わる様々な歴史文化を生み、雄大な山岳景観は、畏敬の念を抱いて望む心の風景でもある。明治以降、より安全に山を楽しむための施設づくりが進められた。山とのつながりが地域経済を支え、歴史文化を育んできた。



2 旧石器時代から古墳時代まで - 地域文化の中心、境界となった伊那市 -

広い段丘面と扇状地に構成される伊那は、谷筋や河川を通じて物や文化が集まり、交わる場所だった。旧石器時代の石器や、縄文時代後期・晩期の生活の跡が遺り、弥生時代初めに稲作が伝わった。古墳時代の前方後円墳や出土資料は、時には地域の中心となり、豊かな文化を育んできたことを物語っている。



3 街道 - 人・もの・文化が行き交う伊那市 -

伊那谷は時代に応じて様々な街道が東西南北に走っていた。「信仰」、「軍事・政治」、「経済」、様々な目的を持った人が往来し、多彩な文化が育まれた。高遠石工は街道を使い全国各地を行き来した。街道が交差する坂下は賑わいを増し、伊那町へと発展した。三峰川上流のダム建設も中心市街地の発展へとつながった。



4 高遠城 - 700年の歴史が作り上げた町並みと文化 -

高遠城の歴史は、時代ごとに様々な影響を地域に与えた。室町時代は小領主が台頭し、戦国時代は武田家がこの地を治め、周辺の商人、職人が武田家を支えた。江戸時代の高遠は政治、経済、文化の中心地として栄えた。明治時代に高遠城跡にタカトコヒガンザクラが植えられて公園となり一大観光地となった。高遠城と城が育んだ歴史文化は、今でも私たちの誇りである。



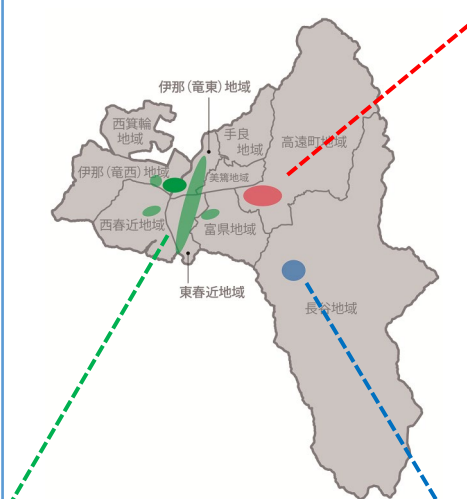
5 天竜川と三峰川 - 河川とともにある暮らしと歴史景観 -

河岸段丘の地形を活かした暮らしがあり、段丘端部には古墳や城館、段丘面には牧や飛行場といった遺跡がある。段丘面や扇状地の扇央には井筋や用水が引かれて新田が広がり、井筋は現在も私たちの生活を支えている。三峰川は氾濫を繰り返した暴れ川で、人々は水害と向き合ってきた。水害が起ころぬよう祈りを捧げ、土木技術を駆使し堤防やダムを築いた。川が造った土地に生き、川を利用しながらも、常に水害と隣り合わせにあった人々の歴史は、後世に語り継ぎ守っていききたい歴史文化である。



4つの保存活用重点区域

歴史文化資源を保存・活用するための「伊那地域」、「高遠町地域」、「長谷地域」の3地域には、それぞれに重要な歴史文化資源が集中する区域がある。これらを「保存活用重点区域」として保存・活用を重点的に進めていく。



高遠町地域の重点区域

高遠地区（高遠城と城下町周辺）

中世以来の門前町に始まり、戦国時代以降は高遠城を中心としたまちづくりが行われた。城下町を拠点に各地に向かう街道筋には多くの歴史文化資源が見られる。近年は寺社や街道筋の石造文化財を活かした観光施策のほか、城下の面影を活かした街路整備事業が進められる。また、明治初期に誕生した高遠公園（高遠城址公園）は、長い歴史の中で桜の名所として多くの市民や観光客に親しまれてきた。



【代表的な歴史文化資源】

- ・【国】高遠城跡
- ・【県】高遠の北が「ザクザク樹林」
- ・【市】准胎観世音 延命地蔵尊
- ・【市】商家池上家 など

伊那地域の重点区域1

伊那（竜西）・伊那（竜東）・富県・東春近・西春近地域の古墳群

天竜川左岸段丘上には、70基以上の古墳が良好な状態で分布している。

【代表的な歴史文化資源】

- ・福島・野底・上牧・古町古墳群
- ・老松場古墳群 など



伊那地域の重点区域2

伊那（竜西）・伊那（竜東）地域の近現代の文化財群

近現代の町の発展に伴う歴史文化資源が数多く存在する。ローメン、ソースカツ丼、馬刺し、昆虫食を提供する店舗も多く、食文化を伝える場所にもなっている。

【代表的な歴史文化資源】

- ・通り町の看板建築
- ・【市】旧上伊那図書館
- ・昆虫食 など



長谷地域の重点区域

中尾地区

南アルプス一帯は、かつての海底が隆起し山脈となった。貴重な地層や地形、その歴史や独自の文化が評価され「南アルプスユネスコエコパーク」、「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク」に認定されている。秋葉街道沿いの中尾地区には「中尾歌舞伎」が伝わる。明和4年（1767年）、旅役者一座が演じた歌舞伎を村人達が真似て行うようになった。太平洋戦争で中断し、昭和61年（1986年）、中尾地区の青年たちが復活させた。

【代表的な歴史文化資源】

- ・【市】中尾歌舞伎
- ・六歌仙の引き幕
- ・【市】中尾辻の石仏群 など



概要 700年といわれる高遠城の歴史は、時代ごとに様々な影響を地域に与えてきた。高遠城が築かれた室町時代は、多くの小領主が台頭した時代で、その頃の城館跡が今でも市内に多数遺されている。戦国時代の伊那を語る上で欠かせないのが、隣国の甲斐から侵攻し、この地域を押さえた武田氏である。高遠城主から武田家当主となった武田勝頼、織田軍との壮絶な戦いが今でも語り継がれる仁科五郎盛信など、武田家ゆかりの人々がこの地を治め、伊那周辺の多くの商人、職人が武田家を支えていた。江戸時代には高遠城を中心に城下町が形成され、高遠は政治、経済、文化の中心地として栄えた。市域には高遠藩のほか、幕府領もあり、人々はそれぞれの帰属意識を持ちながら暮らしていた。伊那谷の学問の中心地もまた高遠で、江戸や大阪で最新の学問を学んだ人々が、藩校進徳館や私塾で教壇に立ち、地域に学問を広めていった。明治時代になると、廃城となった高遠城の跡地にタカトコヒガンザクラが植えられ、多くの人々が憩う公園となった。城跡の桜は「天下第一の桜」となり、現在は全国に知られる一大観光地となった。長い間地域の中心として存在した高遠城と、城が育んだ歴史文化は、今でも私たちの誇りとなっている。

構成資源の位置



課題

- 山城などの中世城館跡は、調査が十分ではなく不明な点が多い。戦国時代の地域社会を考え、高遠城と一体となった活用が進むように、調査が必要
- ストーリーの核となる史跡高遠城は、桜の名所としての公園整備が進む一方で、城郭として分かりやすい史跡整備が進んでいない
- 豊富な歴史文化資源を活かした通年観光が望まれる

など

方針

- 中世城館跡の歴史的価値を明らかにできるよう、縄張り調査などを行う
- 史跡高遠城の計画的な保存・活用・整備を進め、確実に後世へ伝えるとともに、史跡高遠城跡を中核においた地域内の歴史文化資源の保存・活用を進める
- 観光施策と連携しながら、通年観光を目指す

など

主な措置

群4-1 城館跡調査

市内の中世城館跡の縄張り調査を実施する。

■行政、教育研究 ■R7～13

群4-3 史跡高遠城跡整備事業

保存活用計画の策定、藩校進徳館修理、公有地化の推進などを実施する。

■行政 ■R7～16

群4-4 山城遊歩道整備

山城を見学するための遊歩道の整備や維持管理、誘導路の看板整備、城の全体図などの案内板を設置する。

■企業・団体、行政、市民・所有者 ■R7～16